

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

安曇野市教育委員会学校教育課
教育指導室

「平成30年度全国学力・学習状況調査」が4月17日に市内小・中学校17校で実施され、その結果が7月31日に公表されましたのでその概要を報告します。今後、安曇野市教育委員会として教育施策や教育活動に役立てるため、市校長会と協働で組織した学力向上推進委員会にて結果の分析・考察を行ってまいります。

調査の概要

- 調査の名称 平成30年度全国学力・学習状況調査
- 実施日 平成30年4月17日(火)
- 実施学年 小学校6年生(10校、835人)、中学校3年生(7校、849人)
- 調査の内容
 - ①教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)
 - (ア)主として「知識」に関する問題 [国語A、算数・数学A]
 - (イ)主として「活用」に関する問題 [国語B、算数・数学B]
 - (ウ)主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題 [理科]
 - ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

<平均正答率表記について>

【全国・県の平均正答率に対する比較の目安】

記号	意味	正答率差
☆☆☆	(大きく上回っている)	4.0以上
☆☆	(上回っている)	2.0~3.9
☆	(少し上回っている)	1.0~1.9
○	(ほぼ同じ)	±0.1~±0.9
▽	(少し下回っている)	-1.0~-1.9
▽▽	(下回っている)	-2.0~-3.9
▽▽▽	(大きく下回っている)	-4.0以下

「☆☆☆(大きく上回っている)」とは・・・

教科に関する調査の結果について、次表では、「☆」「○」「▽」などの記号を用いて表現しています。これは、上記表に基づく基準で、それぞれの意味があります。たとえば、全国の正答率が80.0、市の正答率が84.0だった場合、

正答率差が 4.0 以上となり、「記号…☆☆☆、意味…大きく上回っている」となります。

【小学校 国語A】

内 容	全国との比較	県との比較
国語A全体	☆	☆
話すこと・聞くこと	○	○
書くこと	☆	☆☆
読むこと	○	○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	☆☆	☆

【小学校 国語B】

内 容	全国との比較	県との比較
国語B全体	☆	○
話すこと・聞くこと	☆	○
書くこと	☆	○
読むこと	○	▽
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		

【小学校 算数A】

内 容	全国との比較	県との比較
算数A全体	○	○
数と計算	▽▽	○
量と測定	☆	☆
図形	▽	○
数量関係	○	○

【小学校 算数B】

内 容	全国との比較	県との比較
算数B全体	○	☆
数と計算	○	☆
量と測定	○	○
図形	○	☆
数量関係	○	○

【小学校 理科】

内 容	全国との比較	県との比較
理科全体	☆	○
主として「知識」に関する問題	☆	○
主として「活用」に関する問題	☆	☆
物質	☆☆	○
エネルギー	☆☆	☆☆
生命	▽▽	▽
地球	☆	☆

【中学校 国語A】

内 容	全国との比較	県との比較
国語A全体	☆☆	☆
話すこと・聞くこと	○	☆
書くこと	○	○
読むこと	○	☆
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	☆☆	☆☆

【中学校 国語B】

内 容	全国との比較	県との比較
国語B全体	☆	☆
話すこと・聞くこと	☆☆	☆☆
書くこと	○	☆
読むこと	☆	☆
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	☆☆	☆

【中学校 数学A】

内 容	全国との比較	県との比較
数学A全体	○	☆
数と式	○	☆
図形	○	○
関数	○	☆
資料の活用	○	☆

【中学校 数学B】

内 容	全国との比較	県との比較
数学B全体	☆	☆☆
数と式	☆☆	☆☆
図形	▽	○
関数	☆☆	☆☆
資料の活用	○	☆☆

【中学校 理科】

内 容	全国との比較	県との比較
理科全体	☆☆	☆☆
主として「知識」に関する問題	☆☆	☆☆
主として「活用」に関する問題	☆☆	☆☆
物理的領域	☆	☆
化学的領域	☆☆	☆☆
生物的領域	☆☆	☆☆
地学的領域	☆☆	☆☆

国語や算数・数学の学力状況

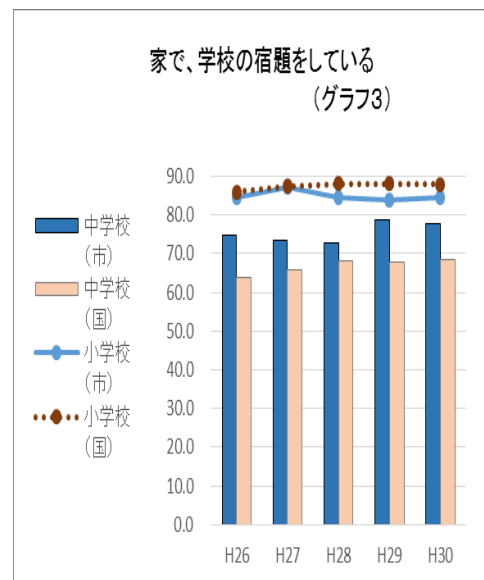
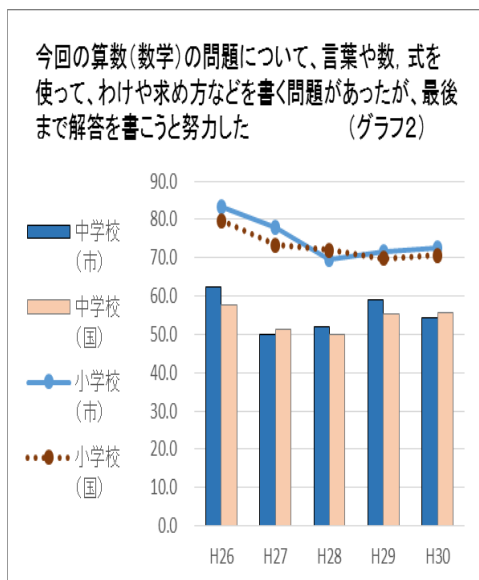
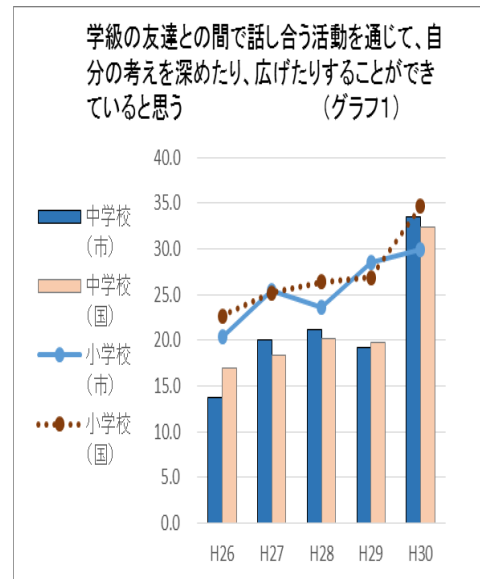
● 傾向と課題

各教科調査全体の平均正答率をみると、小学校国語ではA問題B問題共に全国の平均正答率(以下、全国)を少し上回り、小学校算数ではA問題B問題共に全国とほぼ同じという結果になりました。中学校国語ではA問題は全国を上回り、B問題は全国を少し上回る結果となり、数学では、A問題で全国とほぼ同じ結果となり、B問題で全国を少し上回る結果となりました。また、理科では小学校は全国を少し上回り、中学校では全国を上回る結果となりました。いずれの教科もおおむね良好でした。領域別にみると、小学校算数Aの「数と計算」「図形」、小学校理科の「生命」中学校数学Bの「図形」に課題がみられ、改善が必要です。

また、「安曇野市学力・体力向上4カ年計画」において力点を置いている「主体的・対話的で深い学び」に関わる設問「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」では、「当てはまる」と答えた中学生の割合は、昨年度までは、小学校よりも低い20パーセント前後を推移していましたが、本年度は10%以上の上昇があり、改善が進んでいると考えられます。同様に、小学校でも年々の向上が見られます。(グラフ1)

過去の分析において、学習意欲や粘り強さの減少傾向が考えられるのではと懸念された設問での「算数・数学の全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」や「家で学校の宿題をしている」と答えた小学生の割合をみると、本年度も若干の上昇があり、この点においては改善傾向が見られます。(グラフ2・3)

しかし算数の全体平均正答率を合わせて考えると、算数指導や家庭学習に関しては意欲喚起や内容指導の面で、改善の余地があると思われま



【小学校の傾向と課題】

国語では、話す・聞く能力、及び、言語についての知識・理解・技能については、おおむね身につけていると思われま

算数では、B問題はどの領域も全国や県の平均とほぼ同じか少し上回る結果となりました。いずれかの領域で全国

践する力の改善が見られたと言えます。一方、A問題では、「数と計算」と「図形」の両領域で課題が見られました。中でも、「1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる」ことを問う設問【A1(2)】や、「円周率の意味について理解している」ことを問う設問【A7(1)】は、全国平均を大きく下回る結果でした。図や数直線などを用いて数量の対応関係や大小関係を的確に捉えたり、操作的・体験的な活動を通して、円周率が円周の直径に対する割合であることを理解できたりするような丁寧な指導が求められています。

理科は、全体の平均が県とほぼ同じ、全国を少し上回るという結果で、理科に関する知識・活用についておおむね身につけていると思われます。特に「堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している」ことを問う設問【2(1)】、や「太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できる」ことを問う設問【3(4)】など全国平均を大きく上回っています。しかし、「人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる」ことを問う設問【1(4)】は、全国平均を大きく下回り課題があります。主体的な問題解決による知識の獲得や獲得した内容を図や模型を用いて説明したり、日常生活と関係づけて考えたりする場面を保障する授業を続けていくことが、学力のさらなる伸長につながると思われます。

【中学校の傾向と課題】

国語では、全ての領域で県平均を上回る結果となりました。「文脈に即して漢字を正しく書く」ことを問う設問【A8(1)(2)】や、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」ことを問う設問【A8六(2)】、「全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す」ことを問う設問【B2(3)】は、全国や県の平均を上回る結果となり、定着の高さが伺えます。一方、「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く」ことを問う設問【A8四(2)】では、正答率が全国平均を下回る結果となり、主語・述語の照応や目的に合わせた文の構成、言語についての知識が定着できるような指導が必要だと思われます。

数学では、A問題において「図形」以外の領域で県との比較で平均点を少し上回り、B問題においては「図形」以外の領域は県との比較では平均点を上回っている結果となりました。しかし「図形」の領域は、A問題は国と県の結果とほぼ同じ、B問題では全国との比較で平均点を少し下回る結果となりました。「線対称・点対称な図形の意味や性質についての理解、回転移動した図形の作図」を問う設問【A4(1)】、【A4(3)】や「多角形の内角の和の性質を理解している」ことを問う設問【A6(2)】では平均正答率が低い結果となり、「四角形の対角線について証明したことを振り返り、発展的に考える」ことを問う設問【B4(1)】、【B4(2)】でも平均正答率が低い結果となりました。観察や操作する活動を通して図形の性質を捉えることができるように指導するとともに、新たな性質を見出したり、発展的に考えたりすることができるように指導することが必要だと思われます。

理科では、物理的・化学的・生物的・地学的領域すべてにおいて、全国、県の平均正答率を上回る結果となりました。しかし、「物理的領域で科学的な思考・表現」を問う設問【1】(1)は全国を下回りました。身近な事物・現象について活用できる知識・技能を身に付けるために、科学的に探究する学習活動を通して知識・技能を習得する学習場面を設定する必要があります。また、「化学的領域で自然事象への関心・意欲・態度」を問う設問【8】(3)は、全国とほぼ同じながら、化学的領域の中では唯一わずかに低い結果となりました。探究の過程を振り返る学習場面において、例えば解決した課題について別の条件から考えたり、今までの知識や経験と観察・実験の結果とを比較したりして、新たな疑問をもつように助言や問い返しをする必要があります。

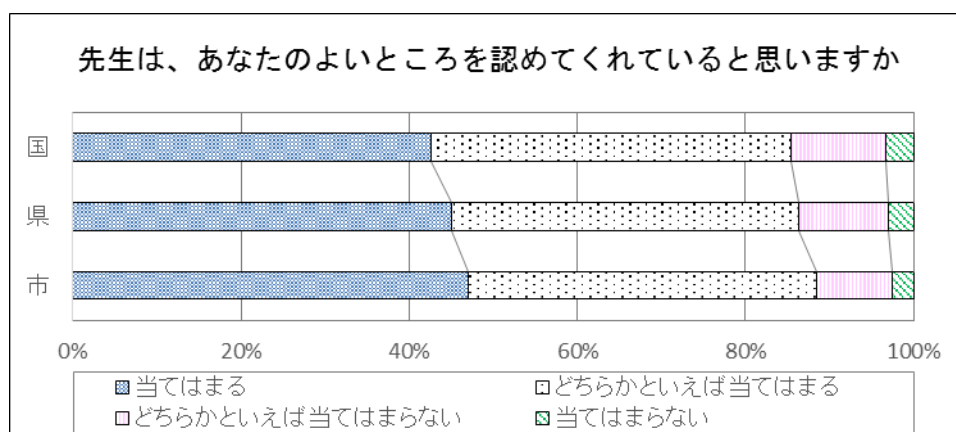
生活環境や学習状況

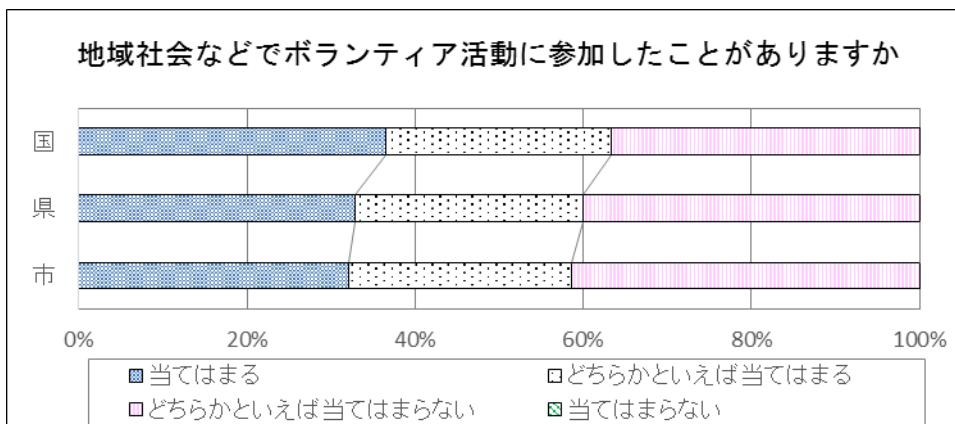
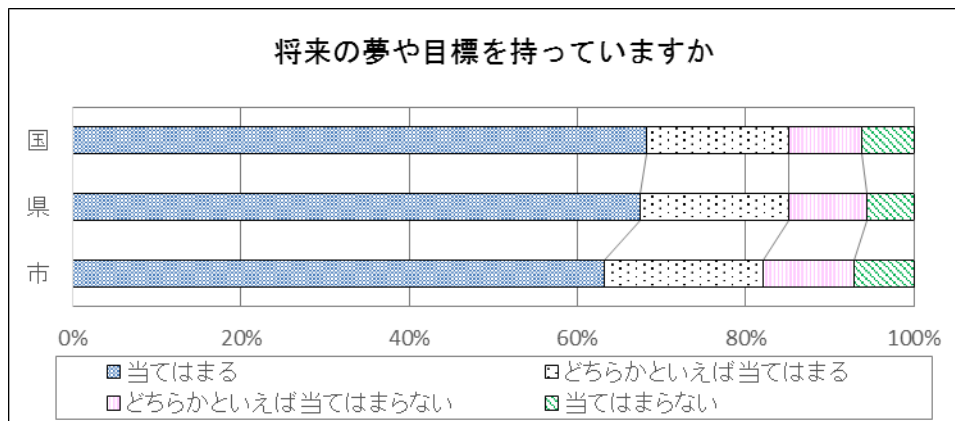
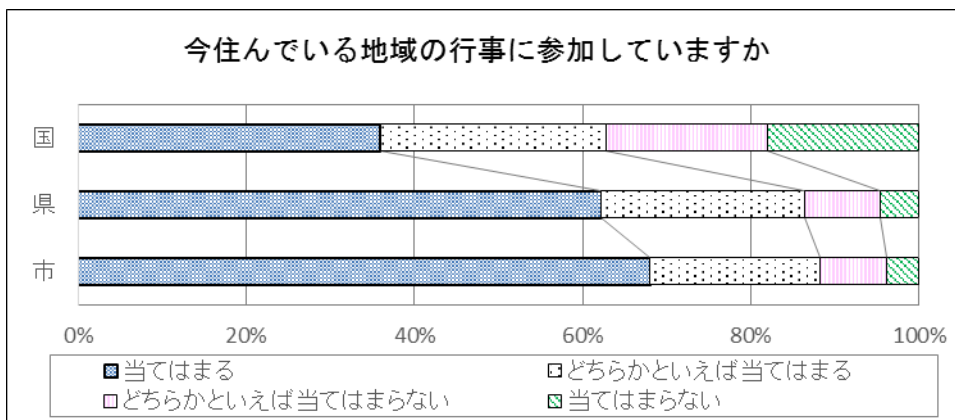
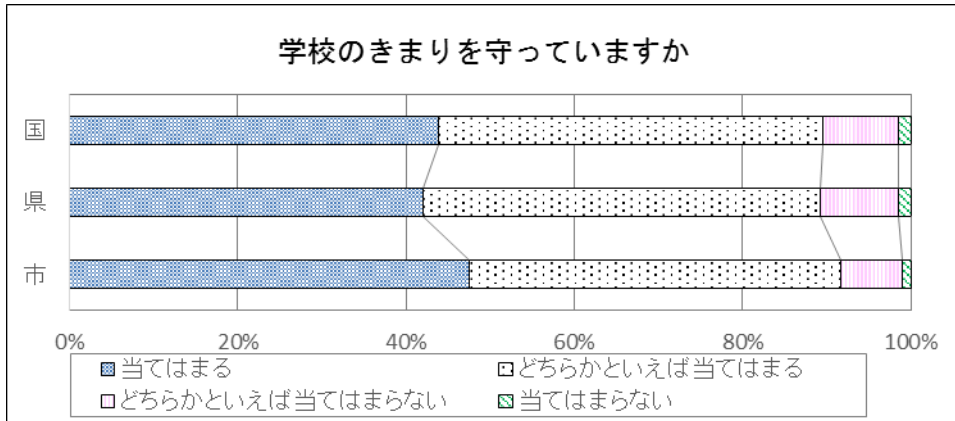
● 傾向と課題

小学校・中学校ともに生活環境や学習状況について回答する児童生徒質問紙の幾つかの項目で、全国平均や県の平均と比べてよい傾向がみられました。中でも「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う」「学校のきまり(規則)を守っている」「今住んでいる地域の行事に参加している」などからは、安曇野市の児童生徒の生活の充実ぶりが感じられます。また、朝食を毎日食べることや起床の時間を一定させることも例年同様よい傾向がみられます。

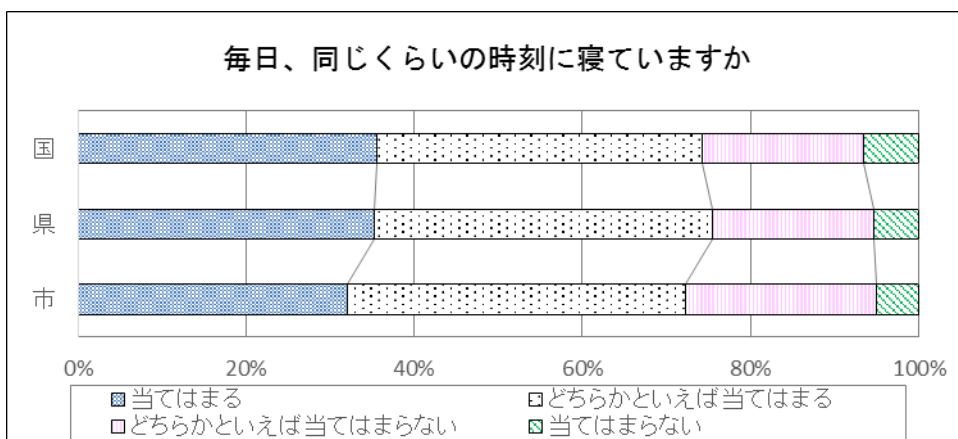
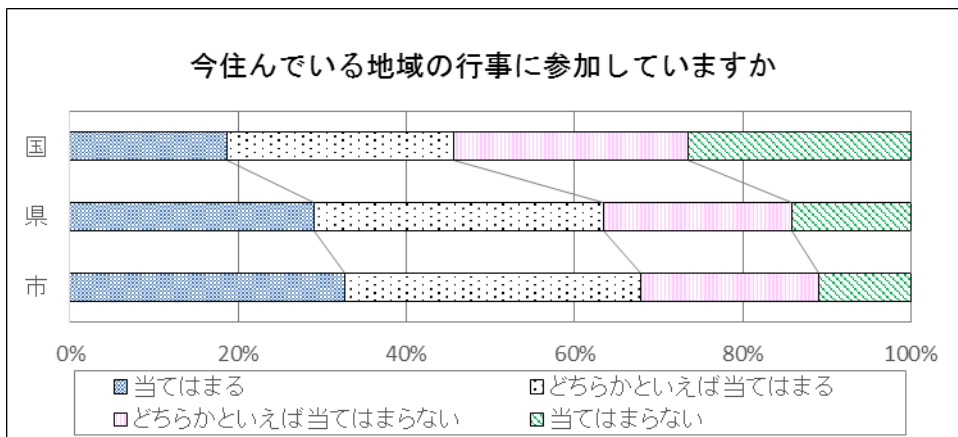
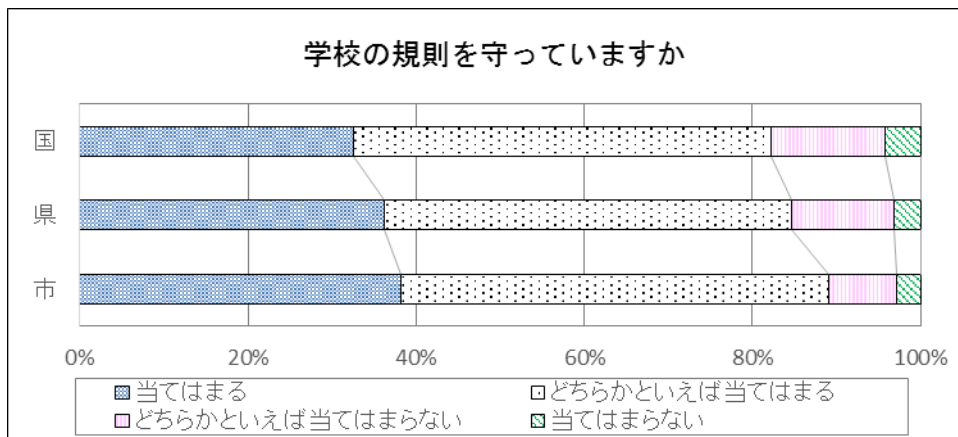
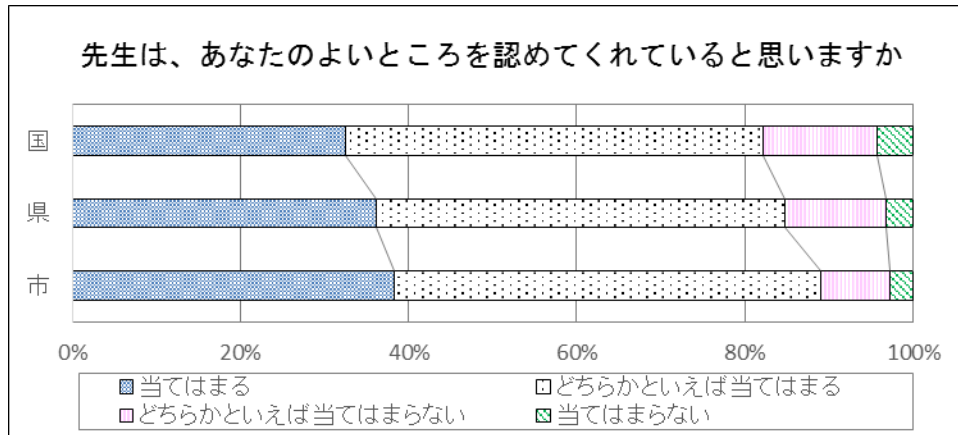
一方、小学校では「将来の夢を持っていますか」、中学校では「毎日、同じ時刻に寝ていますか」の各設問で、全国や県に比べて低い傾向が見られました。また、小中共通の課題として「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」の設問でも、全国や県に比べて低い傾向が見られました。現在、学校や地域で行われている様々な活動をボランティア活動やキャリア教育の視点から捉え直し意識づけて、今まで以上に自己有用感を高め将来の展望へと結びつける必要があると考えられます。

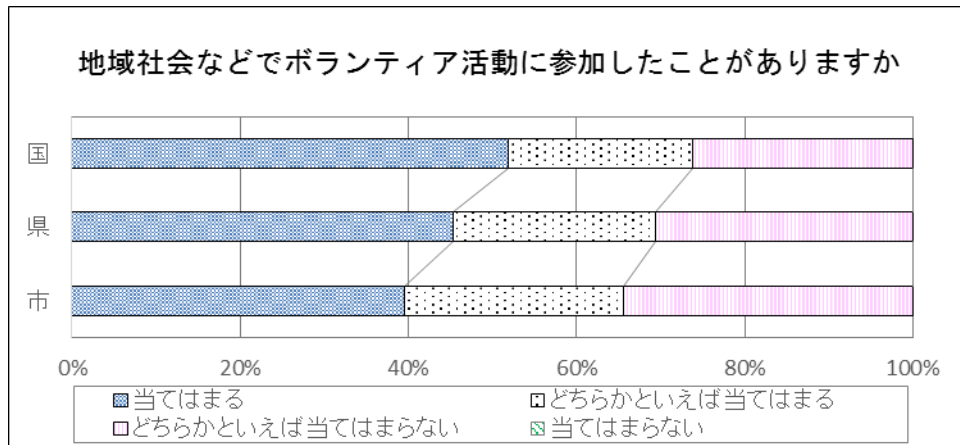
【小学校のグラフ】





【中学校のグラフ】





調査の今後の活用

市教育委員会と各校は、調査を通して把握した児童生徒の実態を教育施策や教育活動に役立てていくために、関係機関と連携しながら次のような取組を行います。

市教育委員会は

- (1) 全国学力・学習状況調査の分析からみえてくる児童生徒や学校の評価や課題を、日々の教育活動に活かせるように支援していきます。
 - ① 国や県の動向を注視し、今日求められる学力とそれに対する学び方や指導・支援のあり方についての方向性を示します。(学力・体力向上4カ年計画など)
 - ② 学校側の願いに呼応しながら、指導主事の学校訪問等で日々の授業改善を支援します。
- (2) 授業や学校生活、家庭学習などにみられる教育課題に対応していくために、市校長会や市教育会と連携して、調査・研究を行ったり、小・中学校間の教職員の交流や研修などを推進したりしていきます。
 - ① 各校で開催される授業研究会や研修会の他校からも参加できるように、月ごとの公開授業、研修会を各校の協力を得て、市内小・中学校に発信していきます。

各校は

- ① 学校での学習や生活の基本的な習慣を形成するとともに家庭学習の定着のために、市教育委員会や家庭、地域と連携をしながら取り組んでいきます。また様々な機会を通して家庭に協力を呼びかけたり、支援をしたりしていきます。
- ② 児童生徒が、授業や学校生活、家庭学習などについて自分の課題を知り、自ら改善していくことができるように、児童生徒と各家庭へ具体的な指導・助言や支援を行っていきます。
- ③ 自校の傾向や課題を把握・分析し、指導内容や指導方法の改善に生かすようにしていきます。そのために、以下の点にも配慮します。
 - (ア) 明らかに落ちている又は伸びている問題の分析をする。

- (イ) 回答数が低い(0～2問程度)児童・生徒の分析をする。
 - (ウ) 当該学年、当該教科だけの課題にするのではなく、全校の授業改善の課題にするために、Q-UやCRTなどの調査や学力検査と関連付けて分析する。
 - (エ) 「安曇野市学力・体力向上4カ年計画」の観点からも分析する。
 - (オ) 必要な補充・補完を計画し実施する。
- ④ 「児童(生徒)質問紙」や「学校質問紙」からみえてくる評価や課題を、日々の指導や教育活動に活かしていきます。

比較的正答率が高い傾向にある子どもの生活の様子

学力調査結果と学習状況調査結果のクロス集計を分析すると、次に示す項目において「している」「当てはまる」「そう思う」と答えた児童生徒の正答率が比較的高い傾向がみられました。

【小・中共通】

- ◇家で、学校の宿題をしていますか
- ◇5年生までに(1、2年生のときに)受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか
- ◇地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか
- ◇学級の友達との間で(生徒の間で)話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
- ◇今回の算数(数学)の問題について、(解答を)言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く(説明する)問題がありましたが、どのように解答しましたか(それらの問題で最後まで解答を書こうと努力しましたか)
- ◇先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

【小学校の例】

- ◇朝食を毎日食べていますか
- ◇学校のきまり(規則)を守っていますか
- ◇家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか
- ◇人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- ◇今住んでいる地域の行事に参加していますか
- ◇自分には、よいところがあると思いますか

【中学校の例】

- ◇朝食を毎日食べていますか
- ◇数学の勉強は大切だと思いますか
- ◇理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- ◇家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか
- ◇毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
- ◇新聞を読んでいますか